



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会
2014/05/16(金)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 148

第28回北海道中学校バスケットボール新人大会決戦大会 IN旭川

山田 明

1月12日・13日と決戦大会が行われ、優勝は東海大学付属第四高等学校中等部、準優勝は帯広市立南町中学校、第3位は斜里町立斜里中学校でした。また、惜しくも北海道カップの出場権は逃しましたが、4位の札幌市立新川西中学校、旭川市立緑が丘中学校、函館教育大学附属中学校とそれぞれチームの特徴を発揮して熱戦が繰り広げられました。

今回の決戦大会は、3月に行われる都道府県対抗ジュニアオールスターに向けて、北海道選抜候補選手の見極め（10月の一次合宿から以降の成長など）と二次合宿への追加選手を探すという観点でゲームを見ていたため、偏った報告となってしまうことをお許しください。

「やはりリバウンドが鍵」

年末に南・北大会が行われているころ、U-15の遠征がありました。そこでは海外選手の高さやあたりの強さに負けないことも目標としており、コンタクトしてリバウンドを取ることを強調して練習に取り組みました。また、国際大会でオフェンスリバウンドを取られてしまった状況を、1・ハードコンタクト、2・ソフトコンタクト、3・ボールウォッチ、4・仕方ない状況の4つに分けました。そしてどの状況で、オフェンスリバウンドを取られていたかという、ソフトコンタクトとボールウォッチが全体の50%近くあるという分析結果も見せてもらい、この部分を注意していこうという確認もされました。

さて、話は大きくそれました。そういった部分でリバウンドに注目しました。当然ですが、もちろん各チームともボックスアウトをするのですが、やはりソフトコンタクトが多く、そしてボールウォッチが圧倒的に多い印象でした。これは改善できるのではないかと思います。

逆にオフェンス側としては、ルーズなコンタクトなので、もっともっとリバウンドに絡める場面もたくさんあったと思います。フェイクをかけたリクロールするなど体の使い方などを工夫しながらリバウンドに飛び込む技術（前提に意欲）はまだまだ伸びるはず。 「相手は大きいから」という状態から「相手の高さにかこつけて挑戦した」というようになっていくのがよいのではないのでしょうか。

「ゲームを作るポイントガード（PG）」

ボール運び、キープ力、ゲームメイクなど役割はたくさんありますが、声を出せるPGに注目しました。各チームともダブルの上手な選手が多く、そしてドライブしていける能力も十分にもっていました。しかし、ゲームの中でもっともっと声をかけてほしい場面もありましたし、ピリオドの終わりなどコントロールしてほしい場面（シュートかリバウンドで終わる）もありました。

過去の道選抜においても、毎年PGが安定しており、それが好成績につながっている一

つの要因でもあります。時にはタイムアウトのHCの指示の後に、さらにPGが指示を徹底する選手もいました。いずれにしても、HCがバスケットをしっかり理解させることが必要ですが、PGを育てるといのはやりがいのある部分だと思っています。また、声の部分では例年に比べておとなしい感じがしました。24秒のコールなどは、ベンチプレイヤーがすぐにできることなので、少しもったいない感じを受けました。

「個人能力」

PGのところでも書きましたが、ドリブルやシュートなど上手な選手が多かったです。ただ、もう少し緩急をつけたドリブルドライブや強いドライブ、ドライブからキックアウトできる技術の向上を目指して行ってほしいと思います。決戦大会に出場したチームに身長の高い選手は少なかったので、全国の高さのあるチームにどのようなプレイをしていくかということも課題になってくると思います。そして、ディフェンスにからだをぶつけてからのロールターンやぶつかってもバランスを崩さずにシュートを決めていく技術も必要になってきます。

一方で、ミニバスを経験していない選手が、例年以上に決戦大会のコートに立ち活躍していたのではないかと思います。中学校からのスタートでもここまで成長できるということを、改めて教えてくれました。言い訳せずに、頑張りたいと思います。

「その他」

今回も、旭川地区の先生方はもちろんのこと、出場されていない学校の選手がオフィシャルなどで大会を支えてくれました。素晴らしい大会でした。そして、8月の中体連全道大会は旭川市で行われます。みんなで切磋琢磨して、旭川で全国を目指した戦いを楽しみにしています。

2015年には、第4回U-16アジア大会が行われます。現在の中学2年生、1年生が対象になります。今度こそ、北海道の選手が日本代表としてコートに立ってほしいと思います。